

科目区分： 教科又は教職に関する科目  
授業科目： 教育実践研究Ⅱ  
担当教員： 平松 義樹  
受講生数： 46名

### 1. 授業の目的と概要

本講座の目的は、最近の学校教育をめぐる諸問題、特に学力論や授業論について実践的に研究していくことにある。そして、教師としての使命感や実践的指導力を培うとともに、人間としての生き方について自ら考える力を育てることをねらいとしている。

### 2. 学生による授業評価

[学生の受講態度自己評価]

優 (39%)、良 (54%)、可 (3%)

[学生による教師評価]

優 (91%)、良 (9%)、可 (0%)

[学生の講座満足度評価]

優 (78%)、良 (23%)、可 (0%)

今年度は、学生による教師評価の「優」が90%に達するとともに、講座満足度の「優」も78%と過去最高の数値を示した。しかし、学生の自己評価である受講態度評価では、逆に「良」が増加した。

### 3. 学生の感想

「この講座の初回の授業で感じたことは、『大学の中に、平松先生に出会えて本当に良かった』という気持ちでした。その気持ちは、この授業の回数が増すごとに強くなっていきました。今では、平松先生は一番尊敬している先生となりました。師と呼ばせていただきたいと思えます。まずせ、この授業で「学力」の考え方について学びました。ザブトン型ではなくアマダクジ型の学力観ではないのかと私も思いました。また、この授業がきっかけで学力低下に興味を持ち、『学力低下論争』と『学びから逃走する子どもたち』の2冊を読みました。そこから市川伸一さんの考え方に共感し、認知心理学から見た望ましい学習構造や、学習における動機付けの2要因モデルなどを調べることにつながり、新しい知識を得ることができました。また、授業について深く考えることができました。授業観察の時の見方や、あえて教えない授業と教えて考えさせる授業など、授業について様々な考え方を学ぶことができました。それをきっかけに市川伸一さんの『教えて考えさせる授業』を読んで、より深い知識につながり

ました。また、授業をどのように作っていけばよいのか、授業について自分自身深く考える機会になりました。実際にフレンドシップで附属中学校に行かせていただいて、吉本先生やその他の先生方の授業からいろんなことを学び、吉本先生からいろいろな話をしてもらっています。そして、最後に、平松先生からの情熱を一番受け取りました。『平成坊ちゃん物語』、そして授業の姿から平松先生の熱を感じ取ることができました。この授業は、これから教育をする考え方の原点になっていると感じています。昔の自分とは明らかに変わっていると自分自身で感じます。本当に平松先生には感謝しています。ありがとうございました。」(理学部、N君)

『素直になること、自分を律し、自分も他人も大切にすること』。私は、この授業から3点を学びました。先生は言われているように、広く、深く、まじめな気持ちでいつも私たちに接していただきました。大学の授業というと一方的ですべて任せられるものや講義など、私の中でのイメージは「冷」でした。しかし、この授業を一文字で表すと「懐」です。あえて「温」にしなかったのは、温よりも更に深いものを学び、「冷⇄温」という単純なものではないと思っています。ふところの中にいるような温かさはもちろんですが、教室がまるく包まれているような雰囲気をもいつも感じていました。まるで中学校や高校のクラスみたいで、朝会ったら「おはよう」と自然にできるように戻っていた自分がいました。その中に入ると、ギスギスしている普段の自分に気付かされ、『もっと素直に感情を出したい』と思うことが多かったように思います。感動する涙や悲しい涙を流すことができたのは、自分自身のそのような面に気付けたからです。また、先生を見ていると、自分を律したい気持ちになります。『〇〇でなければならない』『〇〇したい』と思える姿を見せて頂いているからだと思います。教師の背中というものは大切だと改めて感じました。先週、先生が体調不良だったのに、私たちの授業に来てくださったこと、まさに広くて深くてまじめな先生の愛情だと思います。人間は人から愛を与えてもらおうと、それを繰り返したくなくとも最

近になってようやく気付きました。私も、先生のようにはいきませんが、自分も他人も大切にできる人間になろうと思えたことが、この授業を受けて一番感じたことです。半年間、本当にありがとうございました。」(国債理解、Yさん)

「この授業を受けて学んだことはたくさんあります。まず一つ目は、今日のテストでも出題されていたようないろいろな授業の方法や取組、学びの原則や様々な理論があることを勉強し、知識として自分の中に蓄積することができました。また二つ目として、知識を取り入れただけではなく、授業の中で話を聞くだけではなくいろいろな活動を行う中で、実感を伴った学習をすることができました。活動中は頭をフル回転させて考えたり、グループの人と意見を交わし合ったりというように、このような楽しみながら学べる授業がしたいなと思いました。三つ目に、平松先生や外部講師の先生方のお話が聞けたことは、自分にとってとても刺激になりました。誰もとはじめから完璧な人間などなくて、たくさんのつらい経験や失敗や苦難を乗り越えて、こういった素晴らしい先生になっていくのだなと学ばせていただきました。平松先生が書かれたコラムからは、本当にいつもいつも感動させられるドラマがあって、それはいつも子どもたちと先生が創り上げていく、まさにシナリオのないドラマであり、このような経験をされていることを知れただけでも、私にとってはとても大きな学びとなったように思います。なんとなく受講したこの授業が、私の大学での授業の中で、忘れられない印象深い授業になるとは思っていませんでした。それほど、この授業は、自分の中に眠っていた感情やエネルギーを出すことのできるものでした。平松先生、ありがとうございました。」(教育心理、Iさん)

「まず、この授業に影響を受けて、教育に関する書物をいくつか読むようになりました。たとえば、市川伸一さんの考えには、すごく興味を持ち、総合演習の時間でテーマ自由だったため、『基礎に降りていく学び』について考えを深めました。実際に自分でその学びを経験してみようとも思ったのですが、途中で断念してしまいました。頭で理解して、その考えがどれほど魅力的でも、いざ自分も!と思っても、実際上手いかないなんだな、まだまだ学びが足りなかったのかなと考えることができたのも良い経験です。この時間が毎回楽しく過ごせたのは、先生が長年培ってきた教育実践を見たり聴いたり知ったりすることで、徐々に納得するこ

とができるようになりました。先生にとっても私たちは子供で、教育する対象なのだろう、そう考えると、先生の授業を何回も受けたことで、私はいくつものすばらしい教育を受けてきたのだと思わずにはいられません。たとえば、外部講師の先生に対する熱い思いを事前に知っておくことで、私たちは期待を膨らませて興味を持って一生懸命聴こうとします。また、先生が早くから来て準備して、この授業を大切にしてくれていることを知ると、休むことやさぼることをしなくなります。あつという間の90糞は、先生の心づかいと子どもの目線に立ったものの見方をする配慮だったということ。細かなところまでは覚えていないのですが、「教科に対する専門家であれ、医者であれ、易者であれ、芸者であれ、学者であれ」という言葉を最近知って、私はとても大事な言葉として胸に刻みました。これらのことを実際に感じることでできる授業でした。ありがとうございました。」

(国語、Hさん)

「全授業を通して、とても有意義な講義だった。何より『教育のすばらしさ』、『教育の魅力』を前面に出して、それらを私たちに伝えてくれたことで、改めて、『教師っていいな』と感ずることができた。平松先生、そして、外部講師の力高田も、子どもたちとかかわり、教育に対する思いを熱く、そしてすばらしい笑顔で話してくれたその姿を見ていると、自分も同じように胸が熱くなる思いだった。他の講義では、現代の教育の問題や学級崩壊などの生々しい現実を見せられ、少し落ち込むことがあった。しかし、この平松先生の講義は、いつも明るく、楽しく、希望に満ちた世界を見せてくれた。この講義を受けるたびに、『やはり教師っていいな。絶対になりたい!』と思うことができた。教育には、光と影の部分があることは、まだ学生である私も理解しているつもりである。影の部分も十分に理解しておくことも大切であると思う。しかし、私はやはり光の部分を見ておきたい。常にその光を追い求めていたいと思うのである。平松先生は、私たちに多くの『光』を見せてくれた。私はその『光』を受け、また一つ成長することができたと感じている。平松先生が私たちに伝えてくれたことを忘れず、これからも『教師になる』という夢を追い求めていきたいと思う。」(発達障害、O君)

今年度も多くの学生から熱い思いをいただいた。これに対する返球として、来年度はさらに授業の質を高めたいと思う。そのための努力

をし続ける自分でありたい。